

第 27 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：平成 25 年 5 月 27 日（月）18：30～

場 所：アスト津 3 階 交流スペース A

<参加者>（敬称略）

堀本浩史（すばる児童館）、田中利美（津市民生委員・児童委員連合会）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、山野孝治（あそび箱 AM）、小池啓子（三重県ユニセフ協会）、川合陽一郎（津市教育委員会事務局）、永合哲也（〃）、平田恵美子（子ども家庭課）、浅生伸之（津市こども総合支援室）、丹羽敬二（〃）、大野維佐子（〃）、今田浩介（〃）、田部眞樹子（(特)津子ども NPO センター）、竹村 浩（〃）、浅原直美（〃）、山口久美子（〃）、谷口美子（〃）、中橋千枝美（〃）、野口寛子（〃）、平澤田代（〃）

進行：今田

●第 26 回市民委員会(2013 年 4 月 19 日)報告…別紙をご覧ください。

○予算書 (No. 8) を確認

予算を承認しました。津市に提出させていただきます。

☆子ども会議プロジェクト(暫定)チーム会報告

○子ども委員会の今後の方向性について

- ・今まで参加してもらっている中学・高校に教育委員会と共に市民委員会として働きかけに行っているかどうか。
- ・子ども達が学校を代表して出てきもらえるよう受け皿になって頂ける話しをしていく。
- ・これからの委員会は、任意で出てきている個人と代表との混合になる。
- ・色々な学校(盲・聾学校等)とフリースクール等学校以外の組織(グループ)へ誘いかけをしていきたい。
- ・チームの体制について、又ファシリテーターについても再検討する必要がある。学校の先生や学童の指導員など様々な人に関わっていただきたい。

※以上がチームとしての提案 概ねその方向で進めていくことが確認された。

(以下はそれに関して出ていた主な意見)

- ・子どもの実感と大人の感覚のずれがあることが子ども委員会を 1 年間やったことで見えてきた。
- ・教育委員会は、働きかけはできるが強制はしたくない。
- ・大人の議会と子どもの議会が対等に話し合いができれば。
- ・子ども自身を主体にする。
- ・全ての子どもの参加の保障を積み上げていく。子どもたち全員に働きかけたい。
- ・子どもたちに具体的な話し合いをしながら積み上げてほしい。
- ・学校は誰が責任をもつのか、引率するのか難しい。
- ・市民委員会としてのサポートが必要。

●前回のグループ討議の意見を全体で整理する(別資料)

- ・骨子づくりについてグループの整理をする。

5つの骨子づくりのグループ 子どもの主体=大きな柱

<1 グループ>

- ・学ぶ ・主体としての学び 子どもがあたりまえに持っている権利を知る ・子ども参画
- ・参加 ・子ども委員会

<2 グループ>

- ・存在を認めてもらえる環境をつくる ・ありのまま ・**受容**(自分を受け入れる、人を受け入れる) ・自己肯定 ・比較されない ・気持ちをきいてもらえる ・地域社会 ・環境 ・子育てを保障 ・大人のあり方 ・意識改革 ・援助バックアップ ・家庭の大人のあり方

<3 グループ>

- ・守られる ・いのち(生まれる、情操感性) ・学び ・社会性 ・次の世代へ
- ・安心・安全(保護) ・子ども固有の権利 ・愛着 ・発達段階 ・**「虐待」**の連鎖とそれを防ぐ関係性 サポート ・年齢に応じた子育ての保障 **子育て** ・個別の権利

<4 グループ>

- ・あそび ・余暇・休息 ・感性 ・**居場所** 心の問題、大人の思っている居場所と子どもの思っている居場所とは違う。モモ ・図書館戦争

<5 グループ>

- ・**自己決定** ・主体者となる ・いい子? ・個別の権利 ・**支配**被支配(支配されない関係、大人に支配されない振り回されない) 大人の思うようにさせたい。なぜ? ・システム

- ・次回のコア会議までにメーリングリストでグループを送りますので、どのグループに参加するか表明して戻して下さい。

☆広報

新しいホームページでは、条文へのプロセスの更新を大野さん・今田さんをお願いしています。

●報告書概要版配布

- ・中学・高校は、概要版に子ども委員募集のチラシを挟み込む。
- 作業日 5月29日・30日 13:30～ 津の子ネット事務所にて

●次回市民委員会

2013年6月27日(木) 18:30～

会場: アスト津3階 交流スペース2・3・4・5